仁王堂公園を拠点にまちづくりを

町長 集落の交流にも活用

【小原】平成9年にふるさと創生事業で造られた仁王堂公園は、家族やグランドゴルフでの利用が多い。

この施設を活用することで、より本町の目指すまちづくりに役立たせてはどうか。

【町長】交流を深める施設になると考える。

高齢者から子どもまで、レクリエーションやスポーツでの交流ができる。

集落や地域の活性化につながる意義のある施設である。

小原力三　議員

【小原】仁王堂公園は施設に不備がある。特に駐車場にトイレが必要だと思う。

また、交流の場となる何らかの設備も必要だと思うがどうか。

【町長】トイレは芝の広場に近いところにある。

町民が交流する中で、今以上の設備が必要だということであれば、その段階で検討していく。

仁王堂公園で町民の交流を

税金の使い道が選択できる制度を

町長 意見を参考にしたい

【竹口】寄付条例を制定する自治体が増えている。

寄付条例は、政策や事業に対しての寄付を募り、集まったお金で政策を進めたり、事業の財源の一部にしたりする制度。

ふるさと納税の優遇税制が適用されることで、実質的に納める税金の使い道が選択できる制度を創設する考えはないか。

【町長】本町でも、ふるさと納税で「自然環境の保護・地域福祉の向上・教育の振興」の3種類が選択できる。これ以上に選択肢が増えると、申し込みの書面が複雑になる。

現行の制度で寄付を増やす努力をしたい。

竹口大紀　議員

【竹口】書面が複雑になるからできないというのは行政側の都合。

選択肢を増やして、町民がどのような政策や事業に関心があるかを計ることに意味がある。

町民と行政との関わりが増えることが、これからの地方自治で重要だと考えるが。

【町長】県外の人を中心とした現行制度を、町内の人へのアプローチに変えることは検討していかなければならない。

意見を参考にしたいと思う。

→町民の関心が計れる寄付制度に